

2019 活用戦略セミナー
～働き方改革にDXで立ち向かえ!～

6/18 (火) 経営者様、経営幹部の方におススメ! ※招待制
19 (水) 経営者様、IT 担当者だけでなく、IT 活用に興味ある方におススメ!

お待たせいたしました! いよいよ今年の「IT 活用戦略セミナー」の概要の告知を開始させていただきます。
テーマはズバリ「DX(デジタルトランスフォーメーション)」、既に当社から DX という単語について説明を受けられたお客様も多数見えると思いますが、時代はデジタル技術ありきであらゆる物事が変革され始めています。
中小企業の業務も DX 必要ですが、何故? ってことにお答えし、明日の企業を作るヒントをご提供していただけるプレゼンターを御用意しておりますので、是非とも6月18日、19日のスケジュールを確保して申込書をお待ちください!
※そういえばディズニーランドのファストパスも遂に IT 化、入園ダッシュが必要だったのが、スマートフォン対応になるようですね。あらゆる物事が DX 化され始めています。

- 時間
12:30 受付・展示会場 OPEN
13:30 セミナー開始
17:30 閉場・展示会場終了
- 各日参加者可能数
DAY1 80名(ご招待のお客様のみ)
DAY2 120名
計 200名を予定

プレゼンター紹介

6/19 (水) 講演タイトル
「アナログ掃除屋が取り組んだ DX 実践記」
DAY2 第二講座 株式会社シナジー 取締役 経営本部長 杉原 里志 様



2017年にホワイト企業アワード受賞企業、「西条の酒祭り」で有名な東広島市の株式会社シナジー様は、元々は清掃や警備員派遣がメイン業務でしたが、現在では、人材派遣や採用支援など多数の事業部門を持つ成長企業様。「ぐっとくる中小企業を、多彩な支援でつくりだす。」をスローガンに「経営の12分野」セミナーや、採用、従業員評価制度の導入を通じて地域に強固でユニークなブランド企業を育てるお手伝いをされています。弊社製「警備管理システム」を10年前に導入いただいたことが契機となり、東広島と伊勢の間で相互に交流を重ねており、杉原取締役から、当社も少しお手伝いさせていただいた IT 活用で、各事業部門の業績を向上させた DX 実践記をお話いただきます。
※当社は現在 シナジー様の支援で従業員評価制度を構築中です。

Imadoki アイテム またかよ...Windows7 ご利用の方に告知開始!?

Microsoft は 3月12日の Windows Blog にて、2019年4月以降、Windows 7 が動作する PC に Windows 10 への移行を促す通知を表示すると公表しました。
これは、2020年1月14日に延長サポートが終了する Windows 7 からの脱却を促す施策の一環で、通知は年数回表示されますが、設定で再表示しないようにすることもできるそうです。
Windows10 登場にもアップデートのおススメ画面が表示され、ウツカリ Windows10 を導入してしまう事件が多発したこともありましたが、今回は表示だけで危害は無いようです(笑)



※Microsoft のホームページより転載



先日 ya 当社から Imadoki 「さよなら Windows7 特集号」をお送りさせていただきましたが、既に多くのお客様にて Windows10 への移行準備が始まっています。
平素からお伝えさせていただいておりますが、IT(PC) はもはや業務基盤(インフラ)となっており利用できない状態は許容されなくなっています。
経営者様、各担当者様のご責任の元、ご利用の PC だけでなくシステム、ソフトウェア、Web サービスに至るまでが Windows10 に対応しているかご確認いただきますようお願いいたします。

特にシステム開発系各社は人手不足+新しい Web サービス対応強化により、過去開発した販売管理等の〇〇管理システムのサポートを終了するケースが多くあります。
開発から10年を超える〇〇管理システムをご利用の企業様は、早急に販売元や開発メーカーに対応をご確認されます事をお勧めいたします。

COMDEC Imadoki 2019 April 04 vol.48



クラウド担当者勉強会ご参加ありがとうございました!
そして Kintone hive in OSAKA 参加します!

過去最高の二十名を超える社長様・担当者様の御参加をいただいた「クラウド担当者勉強会」、ご参加いただきありがとうございました。
3年前から開催させていただいております「クラウド担当者勉強会」は、最初は3人の担当者様と始めた勉強会でしたが、多くの社長様、担当者様にご参加いただけるようになった事を素直に嬉しく思い、感謝しております。

クラウド担当者勉強会は、一方的な我々からのメッセージだけでなく、様々な悩み、気づきを持つ様々な業種・規模の社長様・担当者様同士で意見交換・共有を行い、普段とは異なる視点から自社の業務改善を考える機会であり、学びの場でもあります。
地方の中小企業は、数名~十数名の会社で、IT を使った業務改善を、社長様御自身か、IT 担当者が孤立無援で行っているケースがほとんどで、当たり前のことですが、他社がどんな改善を行っているのか、どんな事に悩んでいるのか伺い知ることはできません。

まだまだ一般的でないクラウドサービスを使った業務改善について、我々は勿論、お客様の社長様、担当者様と情報共有することで、各社の業務改善スピードがアップし、業績が向上し、最終的には雇用や地域の活性化に繋がればとの思いで開催を続けさせていただいております。
クラウド担当者勉強会は、今後も地域のクラウドサービスによる業務改善を引っ張る仕組みとして強化してまいりますので、弊社「クラウドサービス定着支援サービス」をご利用の皆様のご参加をお待ちしております。

そして我々も外部との交流、情報共有をサイボウズと進めるべく、お客様も参加できる「kintone Café in MIE」を弊社で3/29に開催、そして5月23日には全国的なユーザーイベントである「kintone hive OSAKA(大阪)」にプレゼンターとして出場いたします。
大注目の業務改善ツールであるサイボウズ「Kintone(キントーン)」、日本全国で利用の機運が高まっていますので、弊社から発信される情報にご注目ください!!

電卓片手に指折りタイムカードの集計していませんか!?



新年度最初の特集は、昨年当社で最も改善された業務である、「勤怠管理」のクラウドサービスについてご案内いたします。
 当社の勤怠 (タイムカード集計) 担当者の意見では、「難しくはない」が、「手間(時間)がかかる業務」との回答でしたが、「難しい」が故に優先順位が低く、なかなか改善されず、創業より 20 年、時間コストを浪費し続けている業務となってしまっていました。
 一昨年「JOBSCAN」勤怠クラウドサービスを導入し改善を図りましたが、残業申請機能やクラウド型給与システム「マネーフォワード給与 (MF 給与)」との連携に不満があり、「King of Time」に利用サービスを変更したところ、勤怠の集計、連携が毎月 15 分足らずで済むところまで改善ができて満足いく結果がでています。

クラウド勤怠管理は多くの経営者様、総務担当者様の悩みを解決してくれるだけでなく、従業員の皆さんがいつでもタイムカードを確認できるメリットがある素晴らしいサービスです。従来のタイムカードによる管理では、人数が多い企業様は働き方改革法案の”有給休暇管理簿”の作成や、”45 時間残業規制”には対応できません。働き方改革法対策の切り札として勤怠管理サービスの導入検討が求められているのです。

● 勤怠管理の仕組みの進化比較表

よく考えたら、私が始めてアルバイトをしていた約 30 年前 (厚生年金休暇センターのプールや、赤福様の工場で餡作りしてた事も ...) に既にタイムカードありました。

気になって何時からタイムカードがあったのか調べていたら吃驚 !! なんと 19 世紀末から今とほぼ変わらない形でタイムレコーダー & タイムカードの仕組みがアメリカの工場で作られていたそうです。日本では、「天野製作所 (現在のアマノ様)」が昭和 6 年 (1931 年) には国産化に成功し普及していったそうで、なんとも恐ろしく進化していない ... というか 19 世紀末に登場して 1 世紀以上使われていた、完成度の高い仕組みに二度吃驚です。
 第四次産業革命の時代、そして働き方改革法案や少子化による生産性向上が本格的に求められる本年において、ようやく中小企業にも勤怠管理システムが本格的に必要とされる時がきたようです。

● タイムカードのデメリット

実際の業務をタイムレコーダー「クラウド型勤怠管理システム」の勤怠管理に関わる時間を 20 人 ~30 人程度の会社様をモデルに表にしてみました。

比較してみると如何に勤怠管理クラウドサービスが効率的というより、タイムカードが進化の終わりに来ており改善が出来ない状態である事が見えてきました。

これは ... 一刻も早く導入したほうが良い気がしませんか？

4 月 1 日に施行される働き方改革法案施行は勤怠管理見直し絶対必要となる改善のチャンスです。各経営者、勤怠管理担当者様は自社の勤怠管理について見直されることをお勧めいたします。

※10 名以下の企業様で勤務体系が簡単な場合は、導入コストや計算時間の勘案でタイムカードの方が費用対効果が高くなりますが、それでも管理・保管面などメリットは大きいのです。

スマートフォンまで進化した電話機や計算機に比べて、タイムカードおそろべし、約 1 世紀の間ほとんど変化ありませんでした。
 2010 年頃からでしょうか？ パソコンによる勤怠管理が一般化し始め、iPad の登場でタブレット勤怠管理等登場しようやく他に追い付いた感がありますね。

	20 世紀初頭	1980 年頃	2000 年頃	現代
タイムカード & レコーダー	 19 世紀末誕生	 時計一体型	 名機アマノ BX2000 発売 ※現在も販売中	 クラウド型勤怠管理登場!
机上計算機				
電話機				



	タイムカード+タイムレコーダー	作業時間	クラウド型勤怠システム	作業時間
タイムカードの発注	都度必要	-	初回のみ	-
タイムカードの作成	毎月必要	1.5 時間	初回のみ	-
タイムカードの配布	毎月必要	0.5 時間	不要	-
タイムカードの回収	毎月必要	0.5 時間	不要	-
シフトの作成	毎月必要	1 時間	毎月必要	1 時間
タイムカードの打刻漏れチェック	毎月必要	締日以降で 3 時間	毎月実行可能	5 分 x 21 日 = 1.75 時間
集計作業	誤打刻や打刻忘れの修正、電卓での集計、確認が必要	4 時間	日々打刻修正を行っているため、締日に短時間終了	0.5 時間
給与計算システムへの入力	入力、確認作業が必要	1 時間	勤怠データ連携で入力不要	-
勤怠データ保管(3年義務)	保管作業・場所が必要	0.25 時間	クラウドに自動保存	-
		合計 11.75 時間		合計 3.25 時間

勤怠管理クラウドサービス



当社で導入した「King of Time」は数ある勤怠管理クラウドサービスの中でもダントツの導入件数がある勤怠管理クラウドサービスです。
 各社次々と勤怠管理クラウドサービスを発売していますが、開発の際には必ず「King of Time」を研究して作られると言われていたほど安定したサービスですから最初の導入にお勧めです。
 クラウド型の特徴を生かして、勤怠データの保管が万全なのは勿論、同じ料金 (一人 300 円 / 月) の中で働き方改革法案に対応する機能が追加されるなど常に最新の機能が提供されています。

KING OF TIME の主な機能

- ・タイムカード (勤怠)
 - ・シフト (出勤スケジュール) 管理
 - ・残業、欠勤、有休等の申請
 - ・出張手当や食事手当など回数での申請
 - ・有給休暇管理簿作成
 - ・給与システムへの勤怠データ転送
- ※弊社はマネーフォワード給与へ連動させています。



スマートフォンでの GPS 打刻や有給休暇、残業申請も勿論対応しています。

クラウド勤怠を検討する 10 個の理由

当社でも分析したときのチェックリストですが、我々も下のチェックの様に 7 個該当しており改善の必要性から「King of Time」導入に踏み切りました。タイムカードよりコストがかかる印象がありますが、時間削減効果は圧倒的ですから導入しない手はありませんね。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> タイムカードを毎月作成して、拠点に配布、回収するのに時間がかかる。
<input type="checkbox"/> タイムカードの代理打刻を無くしたい。
<input checked="" type="checkbox"/> タイムカードの打刻間違い、漏れ、ダブリ打ちチェックが面倒。
<input checked="" type="checkbox"/> タイムカードの保管期間 (3 年) 後の整理が出来ていない、管理が面倒。
<input checked="" type="checkbox"/> タイムカードの勤怠集計に時間と手間が必要で、締日後は忙しくて困っている。
<input type="checkbox"/> 社外に居る営業社員など、みなし出勤申告に不安がある。
<input checked="" type="checkbox"/> 有給、欠勤、遅刻早退や残業の申請フローがあり、管理が面倒。
<input checked="" type="checkbox"/> 給与計算ソフトへの勤怠入力が面倒、更にチェックに時間がかかっている。 | <働き方改革対応>
<input checked="" type="checkbox"/> 残業規制時間となる月 45 時間達成しているか分からず対応できない。
<input checked="" type="checkbox"/> 有給休暇の管理に不安があり、管理簿が無いので新たを作る必要がある。 |
|--|---|

経営者様向け情報 ▶ 働き方改革法案施行！ 有給休暇 5 日間取得義務化 START！

毎年値上げラッシュとなる 4 月 1 日、エイプリルフールの嘘であって欲しいところですが、人手不足、原材料値上げを理由に次々と値上げが発表されていますね。
 そして経営者としてエイプリルフールのネタであって欲しいと思うのが「有給休暇 5 日間取得義務化 & 有給休暇管理簿」の整備が求められる働き方改革法案の施行です (しかも罰金付き)。



有給休暇の制度は有っても、「取得できない (させない)」「申請方法が無い」「パートに有給休暇は無い！」って企業様がまだまだ多数ございますが、人手不足時代の現在では有給休暇制度の整備は勿論、取得が推進されていないと採用面でも大きく不利になってきていますから、考え方を变える必要ができています。

なぜ IT 企業のコムデックが勤怠管理なのか？ ひと昔前は、IT と言えば、3K どころか 7K (「きつい」「帰れない」「給料が安い」「規則が厳しい」「休暇がとれない」「化粧がのらない」「結婚できない) と言われ、労働基準監督署から最も目を付けられやすかった業種です。それ故に対策が進み、優れた勤怠管理システムが次々と開発されたことで、IT 業界は新しい時代にふさわしい勤怠管理が行われている企業が多く、他業種より熱心な企業が多い業界なのです。

新しい働き方時代、そして働き方改革法案が施行された現代において、数十年前と変わらぬ勤怠、給与体系では戦えない時代が来ています。
 経営者、総務担当の皆様におかれましては、メディア、インターネット、社会保険労務士の先生を通じて情報収集、対策に当たられることをお勧めいたします。

事業主の皆さまへ

「働き方」が変わります!!

2019年4月1日から
働き方改革関連法が順次施行されます